
unique unique

NAMU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

unique unique

【Zコード】

Z0496D

【作者名】

NAMU

【あらすじ】

由野^{ヨシノ}。女。高校生。丹羽^{ニワ}。男。高校生。その一人の、会話。

40%がこれら（前書き）

会話劇ですので姿などは一切ありません。

40%にやられた

由野^{ヨシノ}「雨だ

丹羽^{ニワ}「うん

三「そのままでは帰れん」

二「傘持ってきてないの？・・・・・何で僕の手のひらにシタ

打ち始めるの？」

四「降水確率40%にやられた」

二「ああ。持つてこようか」ないかで迷つて、『まあ、大丈夫だろ』的な心境になつて持つて
こなかつたんだ？・・・・・うん。痛い。普通に痛い。ちょっと
強すぎ。もうちょっと弱めにして

三「傘くれ

二「イヤに決まつてるだろ。・・・・・アッパーやめて。手首に
当たつてるから。手のひらじやないから

ヨ「ケチめ」

二 「何? ケンカ売つてる感じ? さつきから親指の付け根に当たつてゐるよ . . . ひらに当てて。ひらに」

ヨ「この、ケチめ」

「やつぱり、ケンカ売ってるよね？たとえ40%でも持つてくれるべきだよ。降るかどうかわかんないんだしや。・・・だから、強いってば・・・」

ヨ「この、ケチめッツツ！－！」

「何で三回も言つて！？僕、何にも悪くないのに…？・・・・・
ねえ、もう痛いからやめて・・・・・」

「よし、強制的に奪う」とかね」

「あれ？ 何それ？ いいの？ 自慢じゃないけど、僕、『女性に手を上げてはいけません』的な教育受けてないからね？」

「おもしろい」

「あれ？マジで僕の『腕』の力見せちゃうよ？」

ヨ「かかつてこい！」

ヨ「フツ」

40%にやられた（後書き）

初小説です。以前書いていたのをを少々手直しして更新しました。
お見苦しい点が多く見受けられるかもしれません、読んでいて
下されれば幸いです。

感想や批評など頂ければ飛び上がって喜びます。よろしくお願いし
ます。

やつ方つてもんがあるじょつ(前書き)

引き続も、余話文です。悪しかりや。

やつ方つてもんがあゐだじょつ

三「のどが渴いた」

一「またこきなりだね」

三「カラカラなのだよ」

一「・・・・・炭酸なりあるけど」

三「おお、ナイス」

一「まあ、あげるとは言つてないよな」

三「くわ」

一「ええー」

三「何だ? やんのか?」

—「え、待つて？今の僕のリアクションのどこにケンカを売る要素があつたの？」

三「よーし、来い。ケチ野郎」

—「何？やる？やるの？手加減しないよ？グードこいつをうよ？…
・・・・・・・・・〇く。わかつた。あげる、あげるよ。この間
みたいになるのは勘弁だしね」

三「ええー」

—「何で…？あげるんだよ！？いいかい？炭酸を、キリ、あげる
んだよ？もつヶチ野郎なんて呼ばせないよ！？」

三「やのよひだな」

—「もう、僕がのじ渴いたよ…」

三「何？炭酸は飲ませんぞ？」

—「もうここから…・・・・早く飲んじゃえよ…」

三「うん。では・・・・・ゴク、ゴク、ゴク、ゴク・・・」

一「うん。清々しい程の飲みっぷりだね」

三「ふう・・・・・ケプチ」

一「うん」

三「ぐせ」

一「まつたく」

三「何をかる」

二「女の子が派手にゲップしちゃいけません。出すな、とは言わなければ。やり方つてもんがあるでしょ。うつよ。口に手をやるとか、そつぽ向くとかさ」

三「ほう。で、私の頭を叩いたのか?まつたくとんでもねえ野郎だな。私がバカになつたらどうしてくれる、ケチ野郎」

—「うん。仮にもモノをくれた人に言つセリフじゃないよね、それは。いや、叩いてないよ? あれはチョップといつ名のツッコミだよ。あと、キミはモノをもらつたんだから一応お礼を言つべきだよ。僕に

四「頭を叩いてくれてどうもあつがとう

—「うん。違うよね?『飲み物をくれてビーフもありがとう』でしょ?『完璧に皮肉つてゐるよね?うん、もうこいつ。何でもない』

三「あ、セウセウ

—「?何?

四「ケプチ

—「ケルマ……」

クシヤクシヤヒヒサヒヒ

三「ハハハ」
「チチチ」

一「え? なんで?」

三「腹が減ったのだけ。」
「ワトコ類」

一「え?」
「めん闇」
「えなかつた。何?」
「ワトコヘ」
「ワトコがビヒヒ
たの?」

三「腹が減つたと言つてこらのだ。ホントにワトコ?
お前の頭
は」

一「聞」
「えなかつたくらこども」
「までも」
「わわれる筋」
「こと悪つて
だね?」
「つてか」
「ワトコはホントにひどこ。全國の中央さん」
「謝つなれ?」

三「ハハハ」

一「軽じ。軽じよ。あと、『ハハハ』
「ト間延びせなこで。
妙にイリハとくるか?」

「注文の多いやつだ……。注文の多い料理店か？お前は」

「ええー? あんなことよー。しかもなんぞアシハセバが怒つてんのー?」

「お前の顔をクシャクシャにしてやるつか？」

「怖いよー嫌だよーやめてよー……OK、わかった。コンビニに行こ。コンビニ。なにされるかわかつたもんじやないし」

「クシャクシャもいーなあ」

「ダメだよ！やめてよその満面の笑み！悪意ありありだよ！？行くなら早く行こうつよ。」

三「しうがないやつだ」

「いいから！その『私がいないとダメなんだから』みたいな無駄なロールプレイいいから！そもそもヨシノさんが行きたいって言つてたんじやん！」

ヨ「ほう。ならば競走でもしようか?」

――「は？」

「ソレまで競走しない。やめしない。」

「いや、別にそこまで急いで

「そうだ、負けた方が勝つ方にオゴる。というのはどうだ？」

「だからね？そこまで

「お、二つ……」私は遠慮がつかない、手を握り合った。

——「ええ？」

ッ！－！追いついてやる！－絶対に追いついてやるよオオオ－－－
や、抜く！抜き去つて度肝をぬいてやるウウウウ－－！」

クシャクシャにしておひがし（後書き）

全国の丹羽さん、申し訳ありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0496d/>

unique unique

2010年10月8日14時44分発行